

よっかいちしりつじんけん どうわきょういっけんきょうたいかい かいさい 四日市市人権・同和教育研究大会が開催されました

がっつ にち にち かんせんしょうたいさく こう ねん つうじょう ちか よんどうけんたいかい かいさい
8月21日(日)、感染症対策を講じながら、3年ぶりに通常に近い四同研大会が開催されました。
ごぜんちゅう きねんこうえん ならけん ごせ しかしほらさいこうじ すいはいしやうんどはっしょうち じゅうしょく きよはらりゆうせん ひと よ
午前中の記念講演では、奈良県御所市柏原西光寺(水平社運動発祥地)住職の清原隆宣さんに「人の世
に、熱と光を!」と題して、ご講演いただきました。

すいはいしやせんげん とお いのち とうと にんげん そんけい じぶん みと よ
水平社宣言を通して、「命は尊いもの、人間は尊敬すべきもの。あるがままの自分を認め、それぞれの良
さをお互いに認め合ひましょう。人が人を生まれた場所などで測るまちがったものさしをなくしていきましょ
う。すべての人に熱と光があります。人が人として誰もが尊く大切にされる社会を作りましょ

う。かご しゃかいきょういっく じゅうみん だんたい がくしゅう けいはつ ぶんかかい てんぱくじんけん かい にしかわはるよし
午後の社会教育「住民・団体の学習と啓発」分科会では、天白人権まちづくりの会 西川晴義さんから
『誇れるまちづくり』にむけて』と題して、報告がありました。地区の子ども数は年々激減し、少子化は慢性的
な課題であり、今後のまちづくりを進めていくうえで子どもたちの存在は不可欠で、昨年11月に実施された「ス
ポーツ鬼ごっここと焼き芋を持ち帰ろう」や1月、3月、7月に実施された「子ども食堂」開催に至る経緯が説明
され、今後の取り組みについては以下の二点のようにまとめられました。

ちいき こ かつどう さんか つの こ へばひろ こうりゅう
〇地域の子どもたちにこのような活動への参加を募ることは、子どもたちにとって幅広い交流がはかられ
仲間づくりを進めていくことにもつながります。並行して、人文協活動である小中学生人権学習会『レ
ッツ』『TOMORROW』、進路学習会『チャレンジ』、まちづくりでは高校生交流活動『くれよん』の年代
別の活性化にもつなげ、小学生から高校生まで継続して参加した子どもたちが、地域の大人たちと豊かに
出会い、成人後にも差別をなくしていく主体者として、今後のまちづくりに貢献してくれるような繋がりを
構築していきたい。

きんねん てんぱくちやう てんぱくちやうらんどうかいとう じゅうみんどうし こうりゅう いぜん くら ていたい
〇近年、天白町では天白町運動会等がなくなり、住民同士の交流について、以前に比べると停滞してい
るように感じる。今後はまちづくりの会が主体となって、子ども食堂の企画・運営を担い、ふれあいまつり
と同様に天白町住民の方に活動の輪を広げ、子どもたちのふれあいを通して、ともに人権に関する活動や
学習会、フィールドワークへの参加等から理解を深め、人権啓発活動の活性化につなげ、差別をなくす輪も
拡げていきたい。そして、大人同士、大人と子ども、子ども同士が今以上に交流できる場を増やし、一人
でも多くの参画者を募り、日永地域に大きく展開させ、子どもたちがこの地区を好きになり、そして誇れるこ
とのできるまちを目指していきたい。

じんけん てんぱく だい かいしやかいどうわきょういっくこうざ 人権プラザ天白 第1回社会同和教育講座

がっつよっか ど しゃかいどうわきょういっくこうざ ぶらくもんだい いま なか じんけんきょういっく だい かいさい
9月4日(土)社会同和教育講座を「部落問題の今と、まちづくりの中での人権教育」と題し、開催しま
した。教育ファシリテーター、Demo代表の武田緑さんを講師にお迎えし、新型コロナウイルス感染拡大
防止対策としてオンライン講演にて行いました。天白第二集会所の会場の他、関係学校や行政機関へ繋い
での実施です。

講義ではまず、部落差別についての説明がありました。地縁、血縁に基づいた差別で、残念なことに現代でもインターネット上での差別、結婚に関する差別など様々な形で差別が残っているという説明でした。また部落差別に限らず差別を受けてきた人々の次の世代の方も不当な立場に置かれてしまう構造（負の連鎖）についても紹介していただきました。

次に講師も関わっていた大阪府箕面市北芝地区でのまちづくり活動についての紹介をしていただきました。地域での子どもの見守り活動としての駄菓子屋企画、周辺地域交流としての街カフェ企画、子ども通貨の導入による子どもの地域活動への参加を促す取り組みについてのお話でした。様々な活動を行う中、その活動に関わる人々が活動自体の意義や目的を確認しながら運営していくことが大事であるとお話をいただきました。

最後に部落問題についての啓発のために講師が講演会で行っているワークショップ実践についてお話いただきました。リモート講演というところで実際に行えなかったのが残念でしたが、部落問題について考えることの重要性を教えてくださいました。

会場からは、「実体験の中での講演でしたので、とてもよくわかりました」「自分の住んでいる地域でつながりが持てるあたたかい地域になるように自分のできることをやっていきたい」との感想をいただきました。

社会は個人の意識の集合体であり、差別をする社会があるということは個人の意識として差別を黙認する状況があるということ、その状況を改善するために人権啓発を続けていく必要があるという講師のお話はとても印象的でした。人権プラザ天白はこれからも社会同和教育講座をはじめとした人権啓発に取り組み、差別を許さない社会を目指して行きます。

レッツ・チャレンジ合同 ～社会見学～ 2022.8.19

朝から晴天の中、久々の社会見学で、「ばんこの里会館」へ行ってきました。まず日永駅まで歩き、あすなろう鉄道に乗車しました。自分たちで切符を買う体験を考えていましたが、今回は参加人数が多かったこともあり、行うことができませんでした。近鉄線に乗り換え、川原町駅で下車、予定よりも少しはやく到着できました。

絵付け体験スタートです。6種類の色を使い、お皿にどんな絵を描くのかを考え、それぞれのペースで始めました。お皿の表面だけでなく、裏面にも描いていました。作業を効率よく進めることができたので、感想なども記入し、作業を終えることができました。帰りは、予定より1本はやい電車にのることができ、はやくプラザに戻ってくることができました。交通ルールや電車内でのマナーなども、きちんと守れていました。

こういった経験を積み上げていくことは、子どもたちにとっても大切なことだと、あらためて感じさせられました。作品は、1か月ほどで出来上がってくる予定です。出来上がりが楽しみです。

